保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人おおぞら福祉会
施設名	事業所内小規模保育所　ぽっぽ保育園
報告者(役職)	與那覇 朝大（園長）
住所・連絡者	〒906-0013　沖縄県宮古島市平良字下里 1356 番地 7
	☎　0980-79-7615 E-mail　poppo.hoikuen2041@gmail.com

○タイトル（保育計画）

「子どものより良い成長を育む遊びを目指して」～遊びを通して、自己肯定感を育む～

○主な助成備品

アイクリップケースセット(指先遊び)、カラフルビーズ紐通し（指先遊び)、磁石でくっつくおままごと洋食屋さん（ごっこ遊び)、ホールのショートケーキでパーティー（ごっこ遊び)、バランス遊びセット(全身遊び)、動物パズル 10 枚組（指先遊び)、みんなであそべる赤ちゃん人形セット（ごっこ遊び）レインボーバランスストーン（全身遊び）キッズカー3 色組（全身遊び）ウェイブバランス平均台（全身遊び)、レール＆ロードデラックス（指先遊び＆ごっこ遊び）等

1.保育計画策定の目的

令和 2 年 4 月 1 日に沖縄県宮古島市で初めてとなる「社会福祉法人おおぞら福祉会事業所内小規模保育所ぽっぽ保育園」が開所した。おおぞら福祉会で働く職員の子どもが優先的に預けられるようになっており、「職員が働きやすくなるように」と願い設立されている。また、地域の子どもも預かれるようになっており、待機児童解消にも寄与している。

開所した当初は、子どもらが楽しめるようにと玩具を一通り揃えていたが、いざ活動をスタートしてみると子ども達にとって物足りない様子が伺えた。その結果「遊びに満足できない」に繋がってしまい、2 歳児同士の玩具の取り合いや 1 歳児の玩具を投げてしまう等の事が頻繁に起こってしまう。その様な事態を改善しようと保育士達は手作りの玩具を準備したり、戸外に出て体を動かしつつ子ども達が玩具以外の面でも満足できるように工夫し、満足できる環境を整えながら子ども達と関わっていたが「玩具が足りない」の課題が浮き彫りになっていた。

当園の理念は「よく遊び、遊びを楽しめる子」としており「遊びを楽しむ」という事は、その遊びを中心にして子ども同士や保育者、身近な大人と十分に関わり他者に「認められる」「受け入れられる」経験ができ、自己肯定感が育まれていく事に繋がると考えられる。

今回、この事業を活用した保育計画策定を行い、当園の理念に基づいた保育展開が更に充

実するように心がけていった。

2. 具体的な実施内容

今回の事業で色んな玩具を購入し子ども達が更に楽しめる環境を整えた。その中からいくつかの遊びを紹介したい。

「ドキドキ、バランスクッション遊び！」

バランスクッションを初めて子ども達に披露した日の事。バランスクッションが入っている箱を見て「大きいね！」「何が入っているんだろう？」と2歳児の子からの声が聞かれた。いざ箱から玩具を出すと「これは何？」「どうやって遊ぶの？」という表情ではあったが、保育者が遊び方の手本を見せると遊び始め、とある2歳児の子は、自分なりに考えてバランスクッションに上り、上手くバランスを取りながら歩き「できた！」と保育者に笑顔を見せ、保育者に褒められる事で再度クッションに上り、遊びを楽しんでいた。

もちろん、中には上手くバランスが取れず途中で床に足をつけてしまう子もおり、残念そうな表情や照れ笑いする表情も見られた。そんな時には保育者に「おしい！もう少しでできそうだったね」「こんな風にやったらできるかも！」等と、子どものやる気が出てくるように声を掛けられたり、保育者の手を借りてバランスをとりながら歩いたりして、「どんな事があっても楽しめる！」という雰囲気の中で、遊びが充実するようにという保育士の配慮も見られた。他にもバランスを取って歩くだけではなく、他児を誘い一緒にクッションの上に乗り抱きついてバランスを取ろうとする微笑ましい姿や、順番を守ったり、譲ろうとする姿も見られた。

「上手にひもを通せるかな？カラフルビーズ遊び！～ひも通し～」

次に紹介するのは「カラフルビーズでのひも通し遊び」である。キラキラと輝くビーズは1～2歳児の心を鷲掴みにし、遊びのスタートとしては最高であった。

大きめのビーズとはいえ、そのまま出してしまうとビーズが散らばってしまい、立ったり

座ったりが続き遊びに集中できない事が予想されたので、テーブルと椅子を用意し、座りながら遊んでもらい、ビーズを子ども専用の小箱に分けて遊びを展開する。すると子ども達は、もの凄い集中力でビーズにひもを通していた。

通し方にも個性がでており、綺麗に紐を伸ばし通す子や、ビーズを通すだけ通して最後に紐を伸ばす子、好きな色のビーズだけを通す子など、それぞれの性格が出ており、通し終えると達成感で満たされ満面の笑みを見せていた。

「アイクリップ遊び」

この玩具は子どもが掴みやすく、小さな力でもクリップが開けるようになっている事や、クリップ同士が繋げやすくなっている事が特徴的である。まっすぐ繋げて「蛇」に見立てたり、丸く繋げてお皿にしたり、別のパーツを使って生き物や車を作り楽しんだりと、遊び方は様々であった。他にも、女の子はクリップを一つ一つ服の袖に何個も挟み、自分の服を飾り付け「プリンセス」に見立てる面白い発想の遊び方も楽しんでいた。

3. その成果と評価

今回、様々な玩具を用いて「遊びを通して子どもの自己肯定感が育まれる」を「ねらい」とし、「子どもの遊びが幅広く展開されること」を「目標」とした。玩具によって遊びは様々で、保育者が思いつきもしない発想で遊びの展開をしていたので、遊びの幅が広がる「目標」を達成できたと感じられる。

又、玩具の種類が増えて

①子ども同士のトラブルが減った。

②玩具を投げる姿が減った。
③様々な遊びを用意でき、保育者の保育展開の幅も広がるきっかけになった。
④玩具を通して、子どもが保育者に「〇〇できた！」「〇〇見て～！」等の会話や、玩具を保育者の前に持ってきて「一緒に遊ぼう」という仕草が増え、他者との関り方のバリュエーションが増えた。
⑤他児と交流も増え、玩具を貸し借りする姿も以前より増えた。
⑥指先遊びの玩具やバランスクッション遊びのおかげで、身体面での発達にも効果があった。

今後遊びが更に深まっていくと、もっと様々な場面で良い効果が生まれてくると考えられる。当園の理念「よく遊び、遊びを楽しめる子」に基づいた保育展開が更に充実し、なによりも子ども同士のトラブルが減り、遊びを楽しむ・満足している姿は自己肯定感の育みに繋がっていった様に感じ、「ねらい」の達成に繋がったのではないと考えられる。

4. 今後の課題と展望

新しい玩具が増え、子ども達はとても満足している様子ではあるが、玩具が増えた状態に慣れてしまうと「子どもが玩具に飽きてしまわないか」が課題である。そうならないためにも玩具の遊び方や保育展開の方法を工夫し、笑顔がずっと続く遊びが継続できるようにしていきたい。

0 歳、1 歳、2 歳と小さな子ども達ではあるが、その可能性は無限大であり、保育園で過ごす 1 日の体験、遊びの中の些細な出来事でも子どもにとっては宝物であり、忘れない体験になり得る。そして保育士という素晴らしい職業は日々驚きの連続と子どもの成長する姿のワクワク感で溢れている。

保育展開の方法や子どもへのアプローチは重要であり、園生活がより充実する必要性を踏まえつつも、子どもの発想力と可能性を信じ、これからの園生活が豊かに過ごせるよう、工夫し取り組んでいきたい。

以上